

道の駅「若狭おばま」の交通結節点機能拡充に伴う 地域の賑わい創出を目的とした社会実験(福井県小浜市)

1. 実験実施の背景

- ・小浜市では道の駅をゲートウェイとして、市内周遊観光の促進に取り組んでいる
- ・道の駅の来場者の増加は頭打ちであり、小浜市への観光客数も伸び悩んでおり、来訪者の市内周遊もあまり見られない
- ・高速バス利用者も伸び悩んでおり、敦賀～小浜間の高速道路を利用する高速バスは運行されていない

2. 検証項目

- ① 新規バス路線の有効性
- ② パークアンドライド駐車場の有効性
- ③ バス待ち環境

3. 今回の実験内容及び結果

【実験地域】 道の駅「若狭おばま」

【実験内容】

- ① 試行バス運行社会実験による新規バス路線ニーズの把握
 - ・高速バスの試験運行による新規バス路線に対するニーズの把握
 - ・「道の駅」を交通結節点とする場合の環境条件を把握
- ② パークアンドライド駐車場としての利用実態調査
 - ・道の駅駐車場を、乗客のパーク&ライド駐車場とするための利用者ニーズを調査
- ③ バス待ち環境としての有効性にかかる調査
 - ・道の駅がバス待ち環境として有効かどうか、アンケート調査によるニーズを把握

【実施期間】 平成28年8月～平成29年3月



図-2 道の駅駐車場



図-3 道の駅休憩施設

4. 検証結果

①新規バス路線の有効性

- ・京都方面からのニーズは十分(申込率は約140%)
- ・金沢方面からのニーズもある(申込率は約31%)
- ・敦賀～小浜～舞鶴間は現状で確認できなかった(申込率は約10%)

②パークアンドライド駐車場の有効性

- ・福井県内から出発のモニターの集合手段の87%が車
- ・通常の道の駅利用者と長時間駐車での利用者の駐車場を区別した場合、駐車状況に変化があった
- ・道の駅から既存路線バスへの乗降(乗継)については、周知不足等もあり十分な結果は得られなかった

③バス待ち環境

- ・ICからの距離としては概ね4kmまでは許容範囲(観光目的での利用の場合)
- ・物販、観光案内等があることでバス待ち環境として効果がある

表-1 路線バス利用アンケート調査

	コース①	コース②	コース②'	コース③	コース④	コース⑤	コース⑥	合計	
利用したい	0	9	8	2	23	1	8	51	28%
条件が合えば利用したい	1	19	30	11	43	1	5	110	59%
利用しない	0	3	3	1	5	1	0	13	7%
無回答	0	1	2	0	6	2	0	11	6%
合計	1	32	43	14	77	5	13	185	100%



図-4 高速バス試験運行ルート

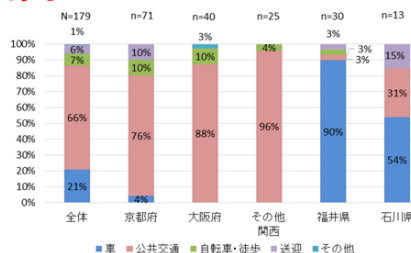


図-5 自宅からの集合手段(県別)



図-6 道の駅バス待ち環境(時刻表掲示)

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

①路線バスのニーズ

- ・北陸新幹線開業に伴う、首都圏や金沢方面から小浜に向かう利用者の需要取り込みが課題

②長時間駐車台数調査

- ・一般車駐車場に長時間駐車する車両により一般車両の駐車利用に支障発生